

西公民館だより

2019年2月1日 発行: 西公民館
 福山市西町1丁目19-2 電話 925-0442
 メール nishi-kouminkan@city.fukuyama.hiroshima.jp

主催: 西学区まちづくり推進委員会(とんど実行委員会)

新春とんど祭り

1. とんど とんど 吉津のとんど
 ハッ ヨイヨイ
 上は鶴亀 チョイト 五葉の松
 ソラヨイ ヨーイ ヨーイヤナ
 ハラリヤ コラリヤ ハーヤー
 アトーエー

2. 見たか 来て見たか福山の城を
 ハッ ヨイヨイ
 前はお堀でチョイト ポラが住む
 ソラヨイ ヨーイ ヨーイヤナ
 ハラリヤ コラリヤ ハーヤー
 アトーエー

■1月12日(土)の1時から西小学校校庭で、新しい年の幕開けにふさわしい行事として、西学区では三度目の「とんど祭り」が開かれました。少雨決行にもかかわらず多くの学区民が集まりました。



【開会を待つ皆さん】

■まず、金藤町連会長、徳山委員長の挨拶があり、来賓として小林衆議院議員、小島西小校長が祝辞を述べられました。とんどの歴史や意義についてのお話をいただき、共に健康で過ごせるように願いを込めてのスピーチでした。



【開会行事】

■点火されたとんどはアツという間に藁が燃えて、竹が燃えると「とんど」の名となった「ドーン、ドーン」という大きな爆竹音が聞こえました。すると待ちに待った「豚汁」の振る舞いがはじまりました。これは前日に各町内から集まった20名の女性達が心を込めて作りました。寒い中の豚汁は最高のおもてなしでした。



【豚汁の振る舞い】



■お正月の「しめ飾り」や「書初め」「門松」等を飾り付けたとんどを燃やす時が来ました。西小学校のPTA会長と子ども10人が火のついたトーチでとんどに点火しました。新年のお飾りもお正月の終わりを告げるとんどの火と共に空の彼方へ上りました。



【子どもたちの点火】

■お芋やお餅をとんどの火で焼いて食べると、1年間病気をせずに元気で過ごせるという言い伝えがあるそうです。平安時代から続くとんど行事で今年も元気に頑張りましょう。

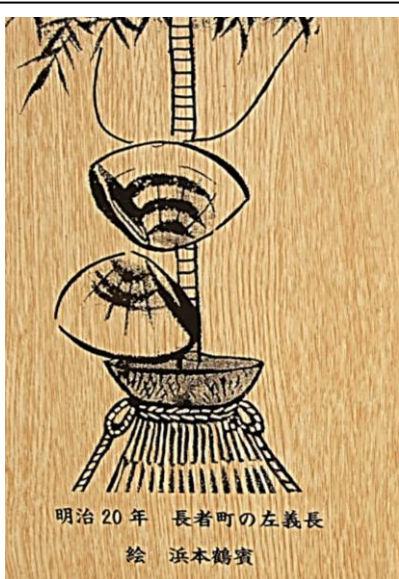


【お餅早く食べたいよ】



【消防団の皆さん有難う!】

● 130年前の「とんど」と町名の由来 ●



明治20年 長者町の左義長 絵 浜本鶴實

長者町 (現・長者町)
 城下北西、武家屋敷であった西町の外側に孤立して位置する町人町。
 水野勝成により城下町が造られる以前は「木之庄」と称された地域で、当町を中心に集落が発達、商工業に従事する町家で繁栄したが、木之庄の長者(荘司、荘園の長)の住んだ場所という意味で町名となったようです。
 伝承として、芦田川の氾濫で洪水が起こったとき、米俵を土のう代わりにして町を救ったと言われています。



明治20年 西町の左義長

西町 (現・お城の南と西、十八町の広域)
 江戸時代の藩政下では、家臣の居住地を城北と城西に分けて、東町、西町と称した。西町は、現在の西町はもとより西は地吹町、南は道三町、霞町、東は昭和町までの中心部の多くの地域が西町と呼ばれていたが、幕末のころより、城西の限られた地域となった。町人町以外、西地域の多くは家臣団の住居であった。
 福山城築城の祝いとして城下三十六町がとんどで練り歩いた。西学区内では長者町と西町が左記の飾りであったという。

消防団員の度胸と勇氣

福山で消防出初式

■福山市の消防出初式が13日(日)9時から、同市草戸町の芦田川河川敷でありました。市内で地域の防災に携わる約2千人が、日頃の訓練の成果を披露し、火の用心を呼びかけました。福山地区消防組合や消防団、地域の自主防災組織などから参加。初期消火や防災ヘリを使った人命救助、地震で被災した建物に取り残された人の救出など訓練を披露。消防車18台による一斉放水もあり、約1万人の来場者が歓声を上げました



【車列行進】



【ヘリの人命救助】

◆消防団員は江戸時代の町火消から伝わるとされる、梯子登りを披露。高さ7mのはしごに登り、逆さになったりポーズを決めたりし「火の用心」の標語が書かれた垂れ幕を掲げました。西学区からは消防団西分団員25名、女性消防団員1名、自主防災本部1名と消防車2台が参加しました。己を忘れ人の命と財産を守るために、威勢と気魄を信条にした消防団員の心意気に只々感動するばかりでした(梯子登り)



西分団消防祝賀会が開催されました

■1月13日(日)14時より西公民館で福山市消防団西分団祝賀会が西分団後援会(会長 金藤昭司 構成員 西学区町内会連合会及び明王台自治会連合会)の主催のもとで開催されました。この祝賀会は福山市消防団西分団(分団長 佐藤登志海 団員 25名)が市民の生命と財産を守るために日夜奮闘下さっている労をねぎらうと共に、日頃の活動に報いるため、毎年消防出初式の日(1月13日)の午後に開催されているものです。



【佐藤分団長挨拶】



【表彰式の様子】

◆今年の祝賀会は福山市消防団本部、福山市消防局、南消防署、北消防署の幹部の皆さんや西学区及び明王台学区の関係者の来賓を含めて総勢59名の参加のもと盛大に開催されました。

西分団長のあいさつの中で西小南門にある一班器具庫の老朽化に伴う改築計画が発表され、今後地域の住民や企業による寄付の協力要請がありました。来賓のあいさつを頂いたのち、会は盛り上がり、最後は西分団員のユーモアあふれる自己紹介で祝賀会が終了しました。西分団の皆さん! 学区民一同、日頃の労に感謝すると共に今年も活発な活動を期待しています。



【1班団員の自己紹介】



【2班団員の自己紹介】

「岩国市防災学習館」を研修しました

■12月24日(月)、福山市公民館長会(48名の公民館長)は岩国市の「岩国市防災学習館」へ研修に行きました。これは岩国消防防災センターの中にあつて、平成27年に立てられました。1階に防災関係の学習コーナーが全て揃い、短時間でも充実した防災の勉強ができました。

◆「防災シアター」ここでは防災の種類と今までの実際の災害を迫力ある映像によって説明を受けました。立体的映像から学べるバーチャル体験シアターです。(映像が壁と床面に写し出されます)

◆「煙避難体験」煙の充満した迷路空間から、避難誘導灯を目当てに3部屋を脱出する体験で、特に怖かったのは、灯を消した真っ暗な中を脱出することでした。

◆「消火体験」消火体験ガイダンスでは「火災を予防して、万一火事が起きた場合は、周りに知らせてすばやく消火しましょう」でした。



【岩国防災センタービル】



【防災シアター】

◆粉末消火器は訓練用水消火器の60倍の威力がある事や、火の手が天井までいいたら直ぐに逃げることを教わりました。

◆「地震体験」震度2~7までの揺れや、過去の大地震・想定地震の揺れを体験できました。震度2では何ともない揺れも、震度5を超えると途端に恐ろしさに、身震いしました。

◆このほかにも「119番通報体験」や「Q&Aコーナー」「防災グッズ展示コーナー」などがあつて充実した体験をしました。建物の3階には「通信指令室」があり、最先端の通信技術によって前面にテレビ画面が映し出され、火事・救急には現場付近が映し出されて迅速な消火や救命が出来るのを見せてもらいました。

◆研修後は美しい岩国錦帯橋を見学しました。錦帯橋も錦川の洪水で何度も流され、そのたびに市民の知恵と情熱で、元の美しい姿に復元され続けています。



【水消火訓練】



【地震体験】



【通信指令室】

本庄中町内会の「とんど」

■1月14日(日・祝)午後7時、本庄中町内会(会長・金藤昭司)主催の「とんど火入れ式」が本庄中公園で行われました。各地のとんどは昼間に火を点けますが、本庄中は昔から14日の夜に燃やすことを続けておられます。7時頃に町内の人達がいしめ飾り・門松・破魔矢・熊手などの縁起物を持参して、とんどに飾り付けていました。10人の子ども達が火のついたトーチで、合図と共にとんどに点火すると見る見るうちにとんどは燃え上がりドーンドーンと大きな爆竹音がしました。真っ暗な夜空に炎が舞い上がる光景を初めて見て感激しました。いつまでも燃え続ける火を見ながら、町内会からぜんざいのお接待を受けて、除災招福のよい機会に合わせて頂きました。

赤々と燃える「とんど」



【ぜんざいのお接待】

【編集後記】

今月は正月の最後を飾る「とんど」と「出初式」を中心に編集をしました。福山のとんどが文献に出るのは、江戸時代初めです。水野勝成が福山城を築いた時に、その祝いに城下36町が趣向を凝らしたとんどを担い、練り歩いて三吉町坂橋の東で燃やしたのが始まりです。とんどは民俗では「悪魔祓い」の一つでケガレを清める行事です。超自然の火の力で除災招福・無病息災を祈る火祭りと言えます。災いを除く術のない昔は、超自然の力に頼るしかありませんでした。

次に「出初式」の消防は、江戸幕府の吉宗の時代に消防組織を作ったのが始まりです。火消し若衆がまといを掲げて屋根に上り、勇猛果敢に消火活動をしたのが全国に波及しました。勇氣と度胸を養うために「梯子登り」が加賀藩から育っていきました。火事・洪水・土砂・津波などの災害時に一番に駆けつけてくれるのが「消防団員」です。出初式の消防団員の凛々しい姿を見て、人々の命を救う使命に燃えておられる尊い若者を、皆で大切にしていかなければと気づきました。(公民館長記)